

楽西

～ らくさい ～
No.127
令和4年
1月15日発行

●● 社会福祉法人
●● 京都視覚障害者支援センター

〒610-1111 京都市西京区大枝東長町 1-67
TEL: 075-333-0171 / FAX: 075-333-0172
✉→info@kyo-ssc.com
URL→https://www.kyo-ssc.com/



法人設立
40周年
記念号

見えなくても

できる。



YouTube

で配信中!

<https://youtu.be/H9bCVLQZ7wI>





新年のご挨拶

理事長 野村 武夫

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染がやっと終息に向かうかと思えば、今度はオミクロンという変異ウイルスの感染拡大が懸念されています。いつになればマスクのない日常が訪れるのでしょうか。

当法人は昨年 11 月 5 日に設立 40 周年を迎えました。設立以来、視覚障害者に特化した洛西寮の作業、生活支援、三療事業就労志望者の研修施設としての盲人ホーム美鈴の運営、2013 年らくさい治療院の開設、翌年に相談支援事業所スマイルサポートの開始、2020 年度からは洛西寮の日中活動を就労継続支援 B 型への転換に取り組んできました。また、法人名称を 2013 年に現在の法人名称に変更して視覚障害者への支援をさらに充実していくことを決意しました。さらに、2020 年より法人の理念として「希望に満ちた成長への喜び」を掲げ、事業の方向付を新たにいたしました。

2022 年度から「見えない」イコール「できない」ではなく、見えなくても自分の可能性を信じ、さまざまなサポートを活用してできることを増やししながら、少しでも自分らしい生活、快適な生活を支援することを法人の使命として取り組むことになりました。

その方策として、一つは昨今の情報通信技術（ICT）の急速な進展の中で、視覚障害者が日常生活の中で感じている情報ギャップを少しでも解消できるように、相談援助を拡充することになりました。さらに盲人ホーム美鈴事業の新たな展開として、就労継続支援 B 型への移行を決定いたしました。

法人を取り巻く事業環境はますます厳しさを増しています。そのような困難な中でもサービスの質を高め、地域社会から信頼と理解を得ながら、存在価値のある事業体として存続するためには、さらなる運営組織と財政基盤の強化が必要です。法人自身が「希望に満ちた成長への喜び」に向けて歩み出す年にしたいものです。40 年にわたるご支援、ご協力に心より感謝し、今後ともご指導の程お願い申し上げます。



働き続けて40年 洛西寮が存在し続けた意義と 今後への期待

理事 田尻 彰

「洛西寮」は、今から 36 年前、視覚障害者の働く場として、生活の場を兼ね備えた全国的にも類例のない施設として誕生しました。

人が人として豊かに生きるためには、視覚障害が「致命的な社会的不利」にならないよう、移動と情報手段の獲得、仕事の保障、暮らしの豊かさを前提にした施設と地域社会とのコミュニティ環境の整備

こそが不可欠です。その人らしく生きるための、個々の成長を育み、分かち合える環境づくりへの後押しが重要です。

そんな中で、本施設には、開所当時から歩行訓練士の配置が行われ、常に自由な移動と豊かな生活支援を保障するための視覚障害リハビリテーションの実践が蓄積されてきました。このことは、40 年間の法人にとって、最も自負すべき誇らしいことだと思っています。それは、働く視覚障害者にとって、移動と情報の保障こそが基本的な生存権を保证するためのセーフティーネットでもあるからです。

そうした取り組みは、新しいこれからの施設づくりにもその基本として受け継がれ、作業と生活とを相互に支援するシステムの再構築が再確認されたばかりです。

私は視覚障害当事者の一人として、「洛西寮」が常にこうした理念を積み重ねながら、「見えなくてもできる」を実践し、具現化する事業所として何時までも羽ばたき続けられるようエールを込めて、記念文集への一文とします。



法人設立40周年を迎えて

監事 甲賀 光秀

困難の連続であったろう 40 年、おめでたいことである。

これからも簡単な道ではないだろう。コロナ禍も重なり皆が息苦しさを感じ、生きづらくなっている。公的財政の問題を出されて福祉政策が重荷になっていると言われるのは誠に残念なことである。世界第 3 位の経済力だというこの国は、福祉を充実させる力がないなどとはとても考えられない。

視覚障害者の場合には障害にはすぐ気づいてくれる。見えないことによる障害は多くの人の支えと社会の支援があって随分と助けられている。昨今では情報機器やコミュニケーションツール、ICT の技術は進んだので、音声認識を活用できる人には大いに役立つ手段である。視覚障害があっても仕事や生活の面でできることが広がる。中途失明者が増えているが、ICT を使いこなせるようになれば視覚障害があってももっと自由になれる。このための相談や支援は急がれるし、大変大切なことである。

視覚障害者の困難さ、生きづらさの要因には、人としての個性や多様性への社会の関心がいまだ少し弱いこともある。この社会は多様性に寛容ではないところがある。最近では夫婦別姓や、ジェンダーの問題などで人の多様性ダイバーシティに関心が向けられ始めた。視覚障害者も人として視覚障害があるという以外の多様な個性がある。日本の憲法第 25 条には「全ての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は全ての生活部面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」とある。マイノリティをも包み込む寛容な社会が進めば、視覚障害者の生きづらさも改善されるだろう。

福祉政策の基本に多様な個性を伸ばす寛容な社会の実現という理念が今、求められている。この法人の理念は「希望に満ちた成長への喜び」である。視覚障害があっても多くのことができることがある。毎日の仕事や生活の場で人としての可能性をもっと拓いていきたいのだ。人として個性を持って成長して人生を充実して過ごしたい、これが希望である。



「見えなくてもできる。」

監事 洛西寮ボランティア 齋藤 常子

40 周年おめでとうございます。私がボランティアとして出入りするようになって 40 年近くになるということに感慨深いものがあります。人生の半分以上を洛西寮と共に過ごしているということで大勢の人と触れ合いました。常に思ったことは人として「見えなくてもできる」ということでした。

視覚に障害をもった人の目の代わりに様々な情報を音声にかえてお役に立ちたいと始めたボランティアでしたが、見えないということは大きなハンディだと思いつつ同時に見えなくてもできることはいっぱいあることがわかり、私にとっても良い経験となりました。

洛西寮の初代の施設長の秋本幸吉さんには驚きました。京都で初の盲導犬ユーザーとして当時は黒いラブラドルのラック(?)のハーネスを持って、三療指導所まで福西東通りを走っておられるのに遭遇した時は本当に驚きました。知識も豊富で語り口も優しく、鳥居篤次郎先生のことを教えていただき「視覚障害は不自由だけど不幸ではない」という言葉に背を押され、何をすれば不自由のお手伝いができるかとボランティア活動を模索しました。利用者の皆さんに役立つ活動をと始めたのが「こんな話あんな話」です。何がお役に立つか?何に興味を持ってもらうか?少しでも役立つ情報を探して 30 年以上続けていますが、読物コーナー、リクエストコーナーと工夫しながら進化しているつもりです。

又、これまで職員さんの指導で利用者さんは釣り、山歩き、カラオケ、スイミング、料理教室等できることに挑戦していた寮生活もこのところのコロナ禍で行動が制限され、思うように動けない不自由さが残念です。興味を持ったことに挑戦する気概を失わないように、息をひそめてコロナをやり過ごしましょう!

見えていてもできないことがあり、見えなくてもできることがあるのです。





法人設立40周年に感謝 そしてこれからの10年

常務理事 小林 茂治

1981年11月、この法人は社会福祉法人紫野福祉センターとして設立されました。

当時私は13歳の中学1年生であり、まさか自分が視覚に障害を持つとは想像もしていませんでしたが、不思議なもので、その視覚障害がこの法人との縁を結んでくれたと思います。

2020年に常務理事となり、新体制の中、洛西寮のB型一体化がスタートしましたが、同時に新型コロナウイルスの世界的な大流行もあり、大変な船出となりました。そして、2021年は京都市の財政難の影響を受けて、法人事業全体が大きく変わることを迫られています。ただ、個人的には悲観的なものは全くなく、逆に本当の意味で、法人が変わる時が来ている大きな機会として捉えています。

さて、法人設立40周年は大きな節目の年ではありますが、大事なことは今後10年間をどう過ごすかだと感じています。その具体的な内容として、来る10年後の大きな世代交代への後進の育成、訓練的要素と障害受容促進が含まれた入所施設の在り方、点字に頼らない作業内容、ICTを活用した仕事、表現者として、スポーツ、芸術、趣味、特技を生かしたSNSでの発信。三療においては、古典的な実費施術が我々の最大の強みであることの啓発及びスキルアップシステムの共有等、今まで既存にあったものだけではなく、新たな時代のニーズに応えられるよう、視覚に障害があっても「できる」をコンセプトにチャレンジし続けることが大事だと考えます。

法人理念の「希望に満ちた成長への喜び」とは何であるかを考えたとき、それは、個別の生きる力、可能性の拡充、充実した人生、大きくこの3つの実現にあると思います。現在の法人名は京都視覚障害者支援センターですが、では、視覚に障害がある方へ何を支援するのでしょうか。

そのキーワードとして「ライフ」と言う言葉を提起したいと思います。この「ライフ」には、人生、命、生活3つの意味があります。当事者として15年前は何もできない状態にありましたが、それが少しずつできることが増えてきて何を手にしたかと言いますと、私個人の自立を手にし、成長へとつながりました。その成長がもたらしたものは視覚障害者としての自由です。人間として、豊かな人生を歩むことは、皆に与えられた当たり前のものだと思います。そして、この豊かな人生の実現が障害のあるなしに関係なく、社会全体の大きなテーマだと思います。

最後に、福祉がなくても十分にやっていける社会であることがベストだと思いますが、そう簡単にはいかないのが社会であります。よって、この小さな法人は視覚障害の方にとって、なくてはならない存在と確信しています。そして、10年後新しい時代を担う方たちにつなげる役割として精進してまいります。

この40年に感謝。そして法人設立40周年におめでとう。

法人沿革

1981（昭和56）年10月	京都府盲人協会が京都ライトハウス内に「紫野福祉センター」設立、社会福祉法人格を取得。京都府盲人協会から「京都盲人三療技術指導所」、「点字出版事業（紫野点字社）」及び、「京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業」を受け継ぐ。初代理事長に玉中修二氏就任。
1982（昭和57）年4月	紫野福祉センターが、京都市北区に「盲人ホーム・美鈴寮」を開設。「京都ライトハウス」が設立当初から運営していた盲人ホーム事業を引き継ぎ、盲女子三療家の共同治療所として経営に着手。
1985（昭和60）年4月	紫野福祉センターが、京都市西京区大枝東長町1-67の現在地に、身体障害者授産施設「洛西寮」を設立、重度視覚障害者のための授産事業を開始。社会福祉法人紫野福祉センターの事務局を洛西寮内に設置。
2001（平成13）年	「洛西寮」が建物、設備の改修工事に着手。
2008（平成20）年5月	初代理事長 玉中 修二氏退任→第2代理事長 眞野 哲夫氏就任。
2010（平成22）年5月	第2代理事長 眞野 哲夫氏退任→第3代理事長 野村 武夫氏就任。
2011（平成23）年5月	陶芸作業閉鎖。その後、陶芸作業場を改築し、医務室の移設と相談室の新設を行う。
2011（平成23）年10月	紫野福祉センター「洛西寮」が、身体障害者授産施設から障害者自立支援法上の障害者支援施設「洛西寮」へ移行。生活介護（日中活動）定員45人、施設入所支援（夜間支援）定員30人のサービスを開始
2012（平成24）年12月	法人名称を「紫野福祉センター」から「京都視覚障害者支援センター」へと変更。
2013（平成25）年3月	京都盲人三療技術指導所・新林本院と福西分院の2事業所を閉鎖。
2013（平成25）年4月	就労継続支援A型事業所「らくさい治療院」開設。 障害者支援施設「洛西寮」の日中活動事業に、就労継続支援B型「らくさい作業所」を定員20人で新設し、既存の生活介護「ちくりん」は定員25人へと変更。
2013（平成25）年4月	「障害者自立支援法」に代わり、「障害者総合支援法」施行。
2014（平成26）年3月	障害者相談支援事業所「スマイルサポート」開設
2015（平成27）年4月	洛西寮 生活介護「ちくりん」の定員を25人 → 20人へと変更
2020（令和2）年3月	生活介護「ちくりん」定員20人を廃止。
2020（令和2）年4月	洛西寮 就労継続支援B型事業「らくさい作業所」の定員を20人から40人へと増員。（生活介護「ちくりん」を廃止し、就労継続支援B型「らくさい作業所」に一体化）

藤村 静男 在籍 36 年

昭和 60 年 10 月に洛西寮に入りその時一緒だった利用者は誰もいなく、今は僕だけやわ。第 1 回法人旅行で冬に城崎温泉に行き、かにを食べたことを思い出す。それと北陸方面に行った時、ドライブインで職員と一緒に雪遊びをしたのが楽しかった。作業は、洛西寮に来たときは、野菜袋のヒモ編みをしていた。八つ橋の箱折りやリネンやいろいろした。今は、ポスターの箱の組立てが出来るようになったことがとてもうれしい。

若松 秋子 在籍 32 年

洛西寮にお世話になり 32 年が経ちました。法人の 1 泊旅行でいろいろな所に行きました。一番印象に残っているのは、法人 15 周年の時に新幹線で熱川温泉に行き城ヶ崎海岸の門脇吊橋を渡ったこと。作業は、入所した頃いろんな作業をしました。箱の種類もたくさんあったけれども今は種類が少なく少し寂しい気持ちもある。初めてミシン作業をした時は、手を縫わないか怖い気持ちがあったけれども、やっていくうちに慣れてきてきれいに縫えるようになり、業者からも「綺麗にできている」と言われてとても嬉しい。これからもいろんなことに挑戦していきたい。

川内 将輝 在籍 33 年

18 歳で洛西寮に来た。
1 泊旅行でスペイン村に行った。
楽しかった。
またみんなで旅行に行きたい。
飛行機に乗って沖縄に行きたい。
一人暮らしもしてみたい。

竹川 幸二郎 在籍 32 年

兵庫県立盲学校高等部を卒業して
18 歳で洛西寮に来た。
作業は少し楽しい。
「ちくりん」の時（バースデー企画）に、
新幹線に乗って
新大阪まで職員と行ったのが楽しかったです。
観光バスで旅行に行った時も楽しかった。

西牟田 慎治 在籍 32 年

24 歳の時に洛西寮に来ました。
その頃は箱作業をしていた。作業・
生活担当は女性職員が僕の担当でした。
入所当初は 24 歳で若くて新人
だったので先輩利用者に厳しく、
いろいろ寮生活のことを教えてもら
った。利用者・職員も入れ替わり、
事業も新しく動きが変わってきた。
今は B 型一体化になり、いろ
んな作業をしています。
コロナが終息したらみんなで東京へ
一泊旅行に行きたいです。

伊郷 富士夫 在籍 35 年

21 歳の時に洛西寮に入所した。若かったなあ。
作業や生活で居室の掃除など職員さんに教えてもら
った。昔は厳しかった。職員とケンカもしたけど、
休憩時間や作業が終わってから話をしたり、
元気がなかったら「どうしたん」と声をかけてく
れてたくさん相談していた。
老後は、地元に戻りヘルパーさんに支援をしてもら
いながら、のんびり一人で暮らしたい。

中尾 憲久 在籍 22 年

施設創立 40 年、そのうちの 22 年を、三療の仕事関係でお世話になっており、そして、ここで出会った様々な人から、多くの学びと経験をさせて頂いております。
その中でも特に、患者さんへの治療を通して強く実感した事のひとつに、私が人の役に立っているという事の認識が出来た事があります。視覚に障害を持つ事で、人に迷惑や、お世話になったりする事が多くある中、わずかながらでも、自分が人の役に立っているとか、人の役に立てるという事は、ありがたいもあり、嬉しくもあり、それはまた、自分に元気とやる気を与えてくれ、前向きとなる生き方にさせてくれています。更に、謙虚で自分の意思をしっかりと持つ事で、これからの人生において、人として価値のある生き方が出来る様な気がいたします。
これからも末長く、この施設を利用する人にとって、未来に光を射してくれる場となる事をお願いいたします。そして、施設 40 年の歴史を創っていただいた、創立者の玉中さんをはじめ、施設に係わり、努力されてこられた全ての人と地域住民の方々に感謝いたします。

利用者さんの声

思い出。そして未来への希望。



平成 28 年 2 月旅行 蒲郡



平成 25 年 4 月
点字作業風景



平成 22 年 9 月旅行
南知多 地引き綱



平成 7 年 年末もちつき



開所当初の陶芸作業風景



平成 12 年 点字作業



令和元年 6 月春の行事 天橋立



since
1981



平成 12 年 陶芸作業



平成 21 年 9 月旅行
木曽 妻籠塾



平成 8 年頃 ネット作業風景



平成 25 年 9 月旅行
山城温泉宴会風景



昭和 60 年 7 月
ミシン縫製開始



平成 7 年 運動会



平成 26 年 9 月
南紀白浜



平成 2 年頃 リネン作業

思い出 アルバム



平成 16 年旅行
浜松市楽器博物館



平成 22 年 4 月 箱作業風景



平成 30 年旅行 鳥取



平成 20 年 5 月
宇治 萬福寺



昭和 59 年 洛西寮建設中

未来に向かって！ 職員からひと言！



巡回相談 スマイルサポート

やりたいことにまっしぐら(清水)
可能性へのチャレンジ！昨日の自分より少しでも成長しよう。(北)
毎日の積み重ねが自分の身となるので、日々、精進します。(井上)

事務局 点字出版



らくさい作業所



1日ひと笑い。(中野ゆ)
自覚と責任感を持って頑張ります。(木下)
「日々是好日」この精神を大切に生きる。(金森)

楽しくなければ人生じゃない。洛西寮で共に楽しく過ごしましょう。(堀)
年齢を重ねると、体力や精神力に衰えを感じることもありますが、
自分用のサビキ(ささっと・びしっと・きちっと)で頑張ります。(後藤)
祝40周年！日々の一所懸命が継続の力。次の10年頑張ろう！(高田)

生活支援



らくさい作業所



初心忘るべからず！(中野あ)
みんなが健康的に元気で生活できるよう
頑張りますのでよろしくお願いします。(橋本)
いつも明るく、元気にがんばります。(水口)
努力は報われる。(日野)

笑う門には健康来る！(上嶋)
洛西寮は人間ならば「不惑」の歳。
私も一緒に成長しながら歳を重ねたいです。(田伏)
心にある花を枯らさずに咲かせよう！(山内)
元気があれば何でもできる。(木下み)

夜勤&日直



自分を信じて笑顔で頑張らしましょう。(藤原美恵子)
次の40年に向かって歩きだそう！(草木)
これから仲良く笑顔で健康にも気をつけて
一緒に頑張っていこうね！(藤原美香)
50周年にむけて健康第一で共に頑張らしましょう。(小神野)
よい良い寮生活を送ろう。(長砂)

盲人ホーム美鈴

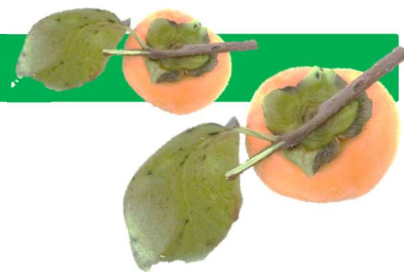


日々明るく過ごしていきたいと思っています。(海野)
笑顔を絶やさず、明るい未来に向かって頑張ります。(鬼塚)

らくさい治療院



チャレンジ&チェンジ！(菅野)
40周年おめでとう！目指せ！法人設立100周年！(小林)
出会ってくれてありがとう！全てのご縁に感謝！(山下)



“柿”とれたよ～♪



11月17日(水)、洛西寮秋の行事で柿狩りに行ってきました。2020年1月に日本で新型コロナウイルスが流行して以来、洛西寮でも恒例の行事が次々とできなくなってしまう残念な状況が続いていました。そんな状況下でも何か“楽しいこと”ができないかと考えていた矢先、2021年9月30日に緊急事態宣言が解除されました。少しずつではありますが日常生活が戻りつつある中で、野外であれば感染防止対策を継続しながら行事ができるのではないかといい思いから、「柿狩り」に行くことに決めました。

さらに、久しぶりに中華処 楊さんに来寮していただき、昼食を提供してもらうことにもなりました。楊さんの中華料理は2年ぶり、海老のチリソース、唐揚げやフカヒレスープ、デザートは揚げ胡麻団子に桃饅頭と本格的な味に舌鼓を打ちました。

美味しい料理に満足したあとは、大枝西長町の「千弥農園」へ柿狩りに出発です。この日は絶好の秋晴れ。徒歩30分の道のりを、紅葉を楽しみながらゆっくりと歩きました。汗ばんで上着を脱ぐ姿もちらほら。到着すると農園の方から柿の収穫方法を教わり、いざスタート!!

各グループ手引きの職員とたわわに実った柿の中から美味しそうな柿を選んで、柿の実をクルクルと何度か回すと「プツッ」と枝から取れて収穫完了。「やった～取れた」とあちらこちらから嬉しそうな声が聞こえていました。「思ったより簡単に取れた」「もっと取りたかった」「今、食べたい」などの声もありました。皆さんの楽しそうな笑顔や声が、天高く広がる秋の空に吸い込まれていくようでした。

収穫した柿は持ち帰って後日、洛西寮の昼食で提供されて秋の味覚を堪能しました。また、来年も秋を楽しみたいです。



楽しかったクリスマス会♪



12月3日(金) 洛友会主催のクリスマス会を開催しました。

4階ホールで昼食を食べゲームを行い、最後にクリスマスケーキを食べました。ゲームはコロナの中でなかなか身体を動かすことがないこともあり、各班対抗で運動ゲームを行い盛り上がりました。来年も皆さんと楽しい企画を考えたいと思います。

洛友会役員一同



新しい仲間たち



盲人ホーム美鈴 池田美幸さん

12月から美鈴にお世話になることになりました。池田美幸です。
3年前に体力的なことや個人的ことで、引退しようと思ひまして現場を離れました。
しかし、将来のことを考えまして、縁あって美鈴で研修をさせていただくことになりました。この3年間の間に、復帰して良かったのは、スタッフ間の明るいやりとりと、相談し合っ、協力して作業をしています。わたしは、以前と変わった様々な環境の変化に浦島太郎になったようですが、早く慣れて頑張りたいと思います。
どうぞ宜しくお願いします。



らくさい作業所 澤田晃宏さん

9月から入所しています。
仕事を楽しく頑張ろうと思います。
よろしくおねがいします。



ご寄附・ご寄贈 ※8月～12月（寄贈順・敬称略）

以下の方々より、ご寄附・ご寄贈を頂戴いたしました。ありがとうございました。

ご寄附（合計 239,658 円）

大芝幸雄・西牟田さち子・三浦豊子・山崎佳代子・居酒屋ことの有志・他（匿名）

ご寄贈（11件）

洛西ボランティア友の会・出原恵子・(株)朱常分店・佐藤恵美・三浦豊子
平井多津子・山口真穂・京都青果協会・中国駐大阪総領事館・河合千鶴子・西牟田さち子

♪編集後記♪

あけましておめでとうございます。

みなさまお正月はゆっくり過ごすことができたでしょうか。

寅年は「成長」や「始まり」の年と言われています。

私事ではありますが、今年？回目の年女となります。（苦笑）

新しい時代の扉を開き、新しいことにトライしたいと思っています。

2022年は素敵な笑ガオーが旧年よりも増えて、

寅のように強く何事にも打ち勝てる年になることを心より願っています。（K）

